

I 計画策定の背景と意義

1 計画策定の背景

現代社会における私たちの暮らしは、科学技術の進化やICTの利活用等で大きな利便性がもたらされています。それに伴い、日常生活における運動不足や、生活習慣病、精神的なストレスの増加等の心身にわたる健康上の問題も生まれています。また、コミュニケーション不足により人間関係が希薄となり、集団や地域コミュニティにおける様々な課題も顕在化してきました。一方で、価値観やライフスタイルの多様化が進み、暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさを求めようとする意欲は高まっています。

現在本市は、全国的にも問題となっています少子化・高齢化が進んでおります。子供の減少に伴う学校部活動の見直しに関する問題や、高齢者の運動する機会減少等の問題は喫緊の課題です。生涯にわたってスポーツを楽しむことができる社会をつくるために、これらの課題を解決していかななくてはなりません。

また、これら以外にも、スポーツ施設などの充実や整備といった課題もあります。すべての課題に体系的かつ組織的に取り組むことが、課題克服の必須条件といえます。

このような背景を踏まえ、課題を総合的に解決していくために、市民全員がスポーツを通し、人の輪を広げ、健やかな心と体をつくり、将来にわたってスポーツを愛好し続けることができるようにしていく必要があります。

本市の前プラン「しんしろ生涯スポーツ振興プラン」～元気いっぱい 笑顔あふれるまち～が平成25年度をもって終期を迎えました。その成果や理念を引き継ぎ、今後取り組むべき方向を明らかにしていくために、「新城市生涯スポーツ振興計画」～人の輪を広げ 健やかな心と体を育むまち～を策定することにしました。

2 スポーツ振興の意義

スポーツの振興は、市民の健康づくりや競技力の向上のみならず、市民の生きがいの創生や自己実現、仲間づくりやコミュニティの活性化など様々な意義があります。また、本市においては、子供が生涯にわたってスポーツを愛好していくために大きな役割を担っています。本計画では、次の点をスポーツ振興の意義ととらえ、施策を展開します。

心身ともに健やかな生活の実現

スポーツへの取り組みは、体を動かす機会の増加につながり、体力の向上や健康の保持増進へつながります。そのため、現代社会における生活習慣病の増加や子供の体力低下、高齢者の介護予防など、多くの課題解決に向けた役割を担っています。

また、スポーツを行うことによって、日々のストレスが解消されたり、仲間づくりにつながったりするなど、精神的にも豊かな生活が期待できます。

生涯にわたりスポーツを愛好し続けることのできる子供の育成

スポーツは、子供の運動意欲や技能の向上心を高め、自己責任や克己心、フェアプレイの精神を培うことができます。また、一緒に活動する仲間や指導者との交流はコミュニケーション能力の育成にもつながり、子供のころからスポーツのよさを体感することができます。

地域の活性化とまちづくり

スポーツ活動を通じて市民が交流を深めていくことは、地域の一体感や活力を生み出します。また、新都市の特色を生かしたスポーツの展開は、市全体の活性化につながり、まちづくりの観点からも重要な意義をもちます。

市民の競技力の向上

市民の競技力向上は、スポーツの活性化に貢献するとともに、地域への誇りや愛着、活力にもつながります。

スポーツの盛んなまちとしてのスポーツ気運の上昇は、スポーツ人口の増加にもつながるという効果も期待できます。

II 計画の位置づけ

「新都市生涯スポーツ振興計画」は、スポーツ基本法第9条の規定に基づく国の「スポーツ基本計画」、愛知県の「いきいきあいち スポーツプラン」を上位計画として策定するものです。また、「新都市総合計画」や「しんしろ健康づくり21計画（第2次）」、「桜淵公園再整備基本計画」等との整合性を保ちつつ、本市におけるスポーツ振興施策を行政・地域・市民が一体となって取り組むための指針となるべき計画です。

III 計画期間

2016年度（平成28年度）に始まり、概ね10年間を計画期間とします。

また、最初の2年間に準備期間として目標に向けた体制づくりを進め、その後の進捗状況や社会情勢の変化に伴い、計画の中間年次（平成32年度）及び必要に応じて見直しを行い、本計画の充実を図るものとします。

IV スポーツの現状

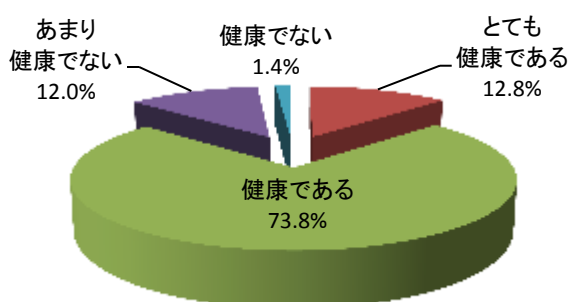
スポーツ振興を実現するためには、「いつでも」、「どこでも」、「誰とでも」気軽にスポーツ活動に親しむことができる環境を整えることが必要です。そこで、本市が実施したアンケート調査（平成26年9月実施：対象は市内小学5・6年生及び中学生2,095人、一般1,652人、スポーツ指導者40人）から本市におけるスポーツの現状を整理しました。

1 市民のスポーツへの意識と参加

(1) スポーツへの意識

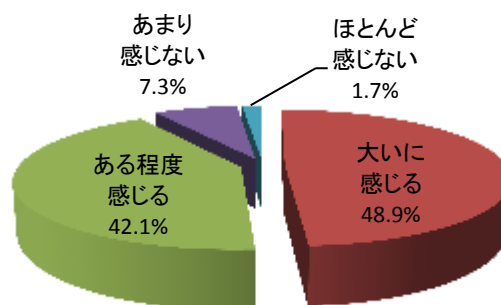
86.6%の人が、「とても健康である」または「健康である」という意識を抱いています。また、90%以上の人がある程度または大いに運動不足を感じています。＜資料1・2＞

資料1：現在の健康への意識



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

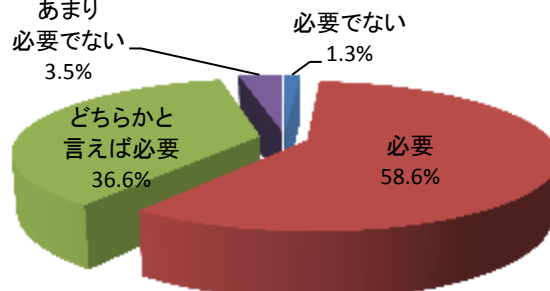
資料2：運動不足への意識



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

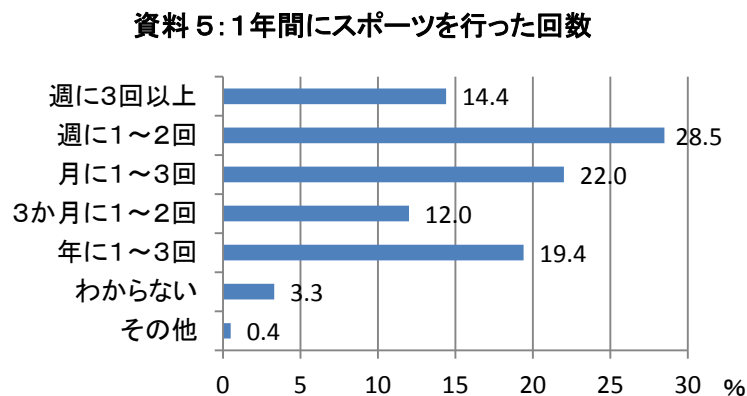
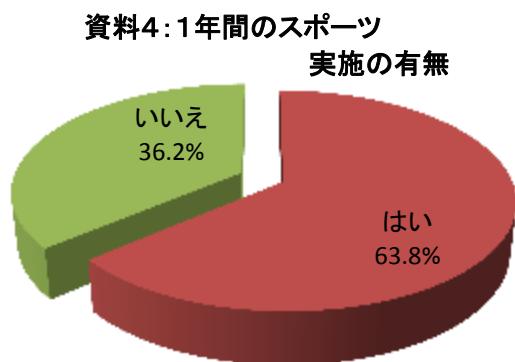
また、運動不足であると感じている人のほとんどが、スポーツを必要だと考えています。＜資料3＞

資料3：スポーツの必要性



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

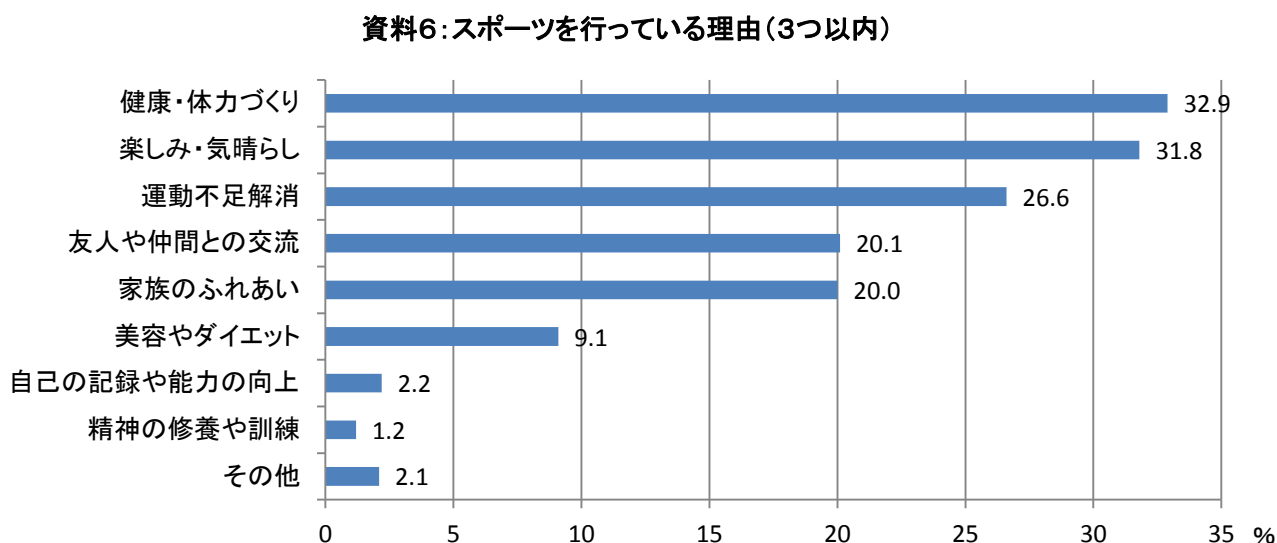
(2) スポーツの実施率



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

1年間にスポーツを行ったことのある人は全体の63.8%となっています。＜資料4＞その日数を調べてみると、「週に1～2回」(28.5%)が最も多く、「週に3回以上」(14.4%)と合わせて42.9%の人が週に1回以上スポーツを行っていることとなります。これは、全市民の27.4%(3.5人に1人)にあたります。＜資料5＞

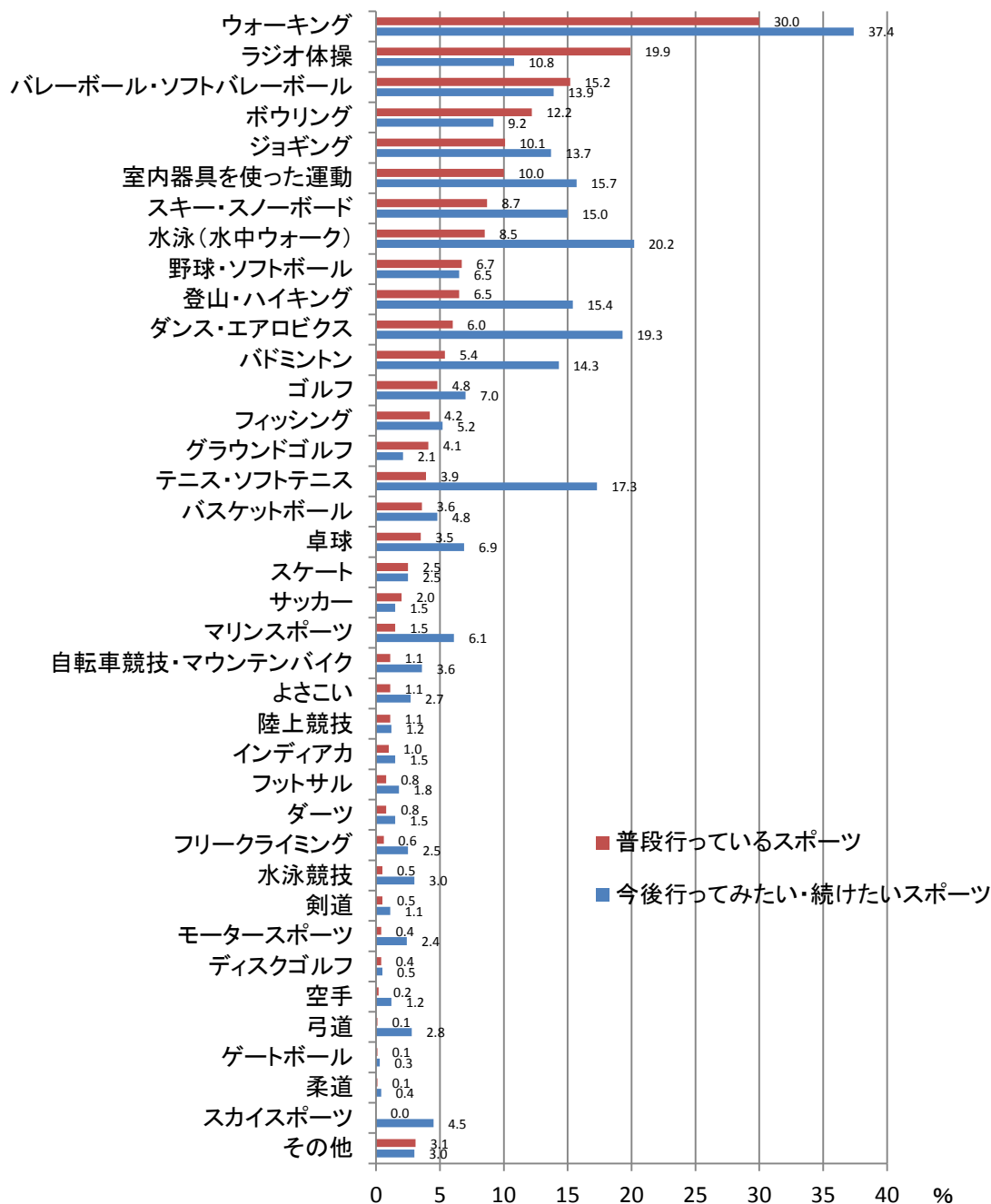
また、スポーツを行っている理由としては、「健康・体力づくり」(32.9%)が最も多く、次いで、「楽しみ・気晴らし」(31.8%)、「運動不足解消」(26.6%)、「友人や仲間との交流」(20.1%)となっています。このことから、気分転換や健康増進、友人や仲間との交流がスポーツを行うきっかけとなっていることがわかります。＜資料6＞



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

(3) スポーツ種目

資料7：普段行っているスポーツ、
今後行ってみたい・続けたいスポーツ（5つ以内）



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

普段行っているスポーツとしては、「ウォーキング」(30.0%)、「ラジオ体操」(19.9%)
など、手軽に行えるスポーツが上位にあがっています。＜資料7＞

また、今後行ってみたい・続けたいスポーツでも「ウォーキング」(37.4%)が最も
多く、「水泳(水中ウォーク)」(20.2%)や「ダンス・エアロビクス」(19.3%)など、
手軽にできるスポーツの人気の高まっていることがうかがえます。

(4) スポーツ大会・教室への参加

資料8のように、「市民体育大会」をはじめとした各種のスポーツ行事が年間を通して行われています。特に、「新城マラソン」は近年、約3,000人の選手が参加し、大会を盛り上げている状況です。

また、夏休み期間中に開催される小中学生を対象としたスポーツ教室は、市体育協会に加盟する各種団体に指導を委託し、13種目（1教室5～9日）が実施されています。その他、「つくしんぼうスポレク祭」や「しんしろこどもすぽーつくらぶ」など子供が気軽にスポーツに親しむことができる行事が行われています。

資料8：市主催によるスポーツ行事

行事名	種目等	人数	時期
市民体育大会	ソフトボール等 18 種目	1,800 人	4月～5月
スポーツ教室	バレーボール等 13 種目	1,200 人	7月～8月
水泳教室	水泳	150 人	7月～8月
つくしんぼうスポレク祭	グラウンドゴルフ等 5 種目	430 人	6月
新城マラソン	10 km等 31 部門	3,000 人	1月
鳳来地区市民ゴルフ大会	ゴルフ	200 人	3月
しんしろこどもすぽーつくらぶ	ペタンク等のニュースポーツ	50 人	6月～3月(月1回)

「市教委調べ」(H26)

(5) スポーツを行わない理由、スポーツをする上で不便に感じること

スポーツを普段行っていない人が、スポーツを行わない理由としては、「仕事（家事・育児）が忙しいから」（79.3%）が最も多くなっています。次いで「機会がないから」（48.2%）が多く、身近にスポーツをする機会があれば、スポーツを行う人が増えることが期待できる結果となっています。しかし、「スポーツが好きではないから」（21.6%）も次いでおり、スポーツに興味・関心がもてない人も見られます。＜資料9＞

また、スポーツを普段行っている人が、スポーツをする上で不便に感じることでは、「仕事（家事・育児）が忙しい」（65.2%）が最も多く、次いで「機会がない」（33.4%）という結果になっています。さらに、「費用がかかる」（32.8%）、「場所や施設がない」

(24.8%)、「施設の利用手続きが面倒」(13.0%)が次いでいることから、施設利用に関わる問題点が多くなっていることもわかります。

資料9：スポーツを行わない理由、スポーツをする上で不便に感じること（複数回答 上位7項目）

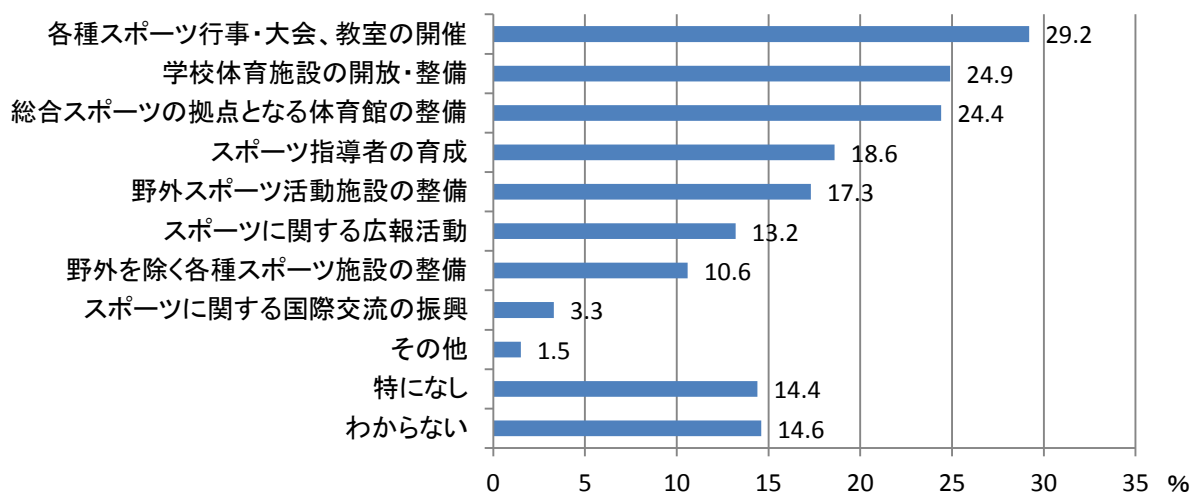
スポーツを行わない理由		スポーツをする上で不便に感じること	
仕事（家事・育児）が忙しいから	79.3%	仕事（家事・育児）が忙しい	65.2%
機会がないから	48.2%	機会がない	33.4%
スポーツが好きではないから	21.6%	費用がかかる	32.8%
費用がかかるから	20.9%	場所や施設がない	24.8%
仲間がいないから	11.0%	施設の利用手続きが面倒	13.0%
場所や施設がないから	10.0%	仲間がいない	11.6%
健康体力面で不安があるから	7.0%	指導者がいない	7.3%

「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

（6）スポーツ施策へのニーズ

市に力を入れてもらいたいスポーツ施策として、「各種スポーツ行事・大会、教室の開催」(29.2%)、「学校体育施設の開放・整備」(24.9%)、「総合スポーツの拠点となる体育館の整備」(24.4%)などがあげられています。スポーツを行うきっかけづくりや機会、場所を求めていることがわかります。〈資料10〉

資料10:市に力を入れてもらいたいスポーツ施策（複数回答）



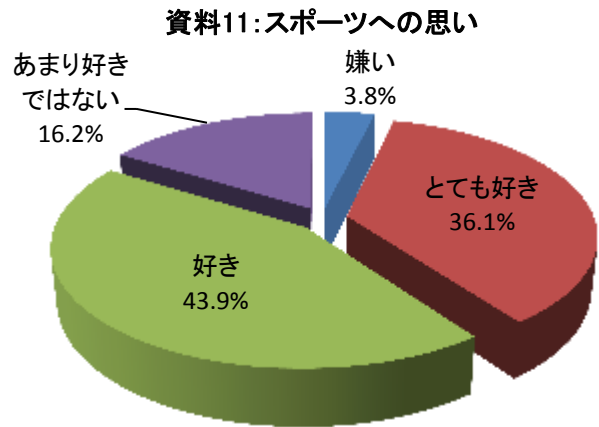
「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

2 子供のスポーツへの意識と参加

(1) スポーツへの意識

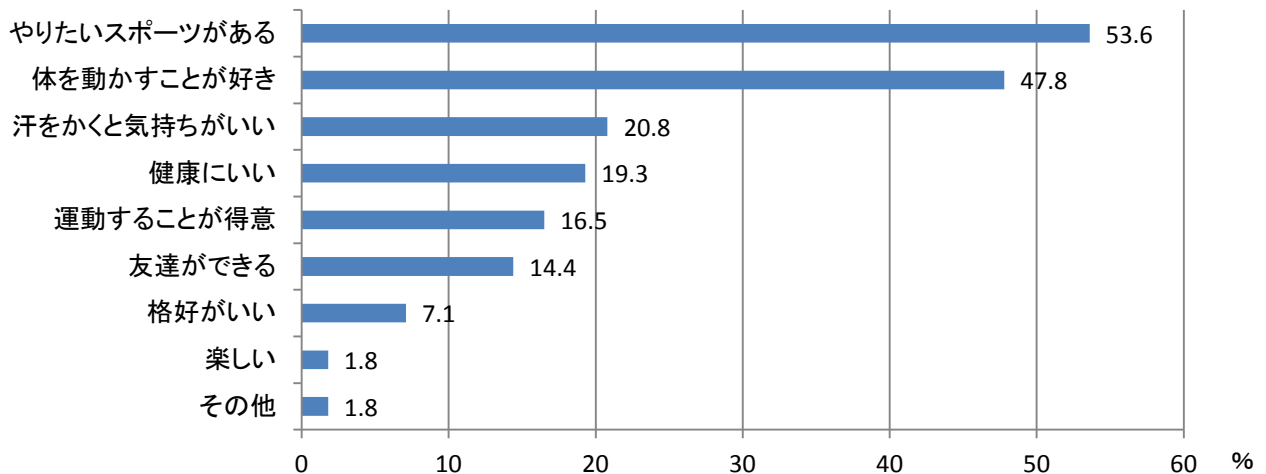
市内 16 小学校（5・6 年生）および 6 中学校の 80% の子供がスポーツをすることを好んでいます。〈資料 11〉

その理由として、「やりたいスポーツがある」（53.6%）と答えた子供が最も多く、次いで「体を動かすことが好き」（47.8%）、「汗をかくと気持ちがいい」（20.8%）の順となっています。〈資料 12〉



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

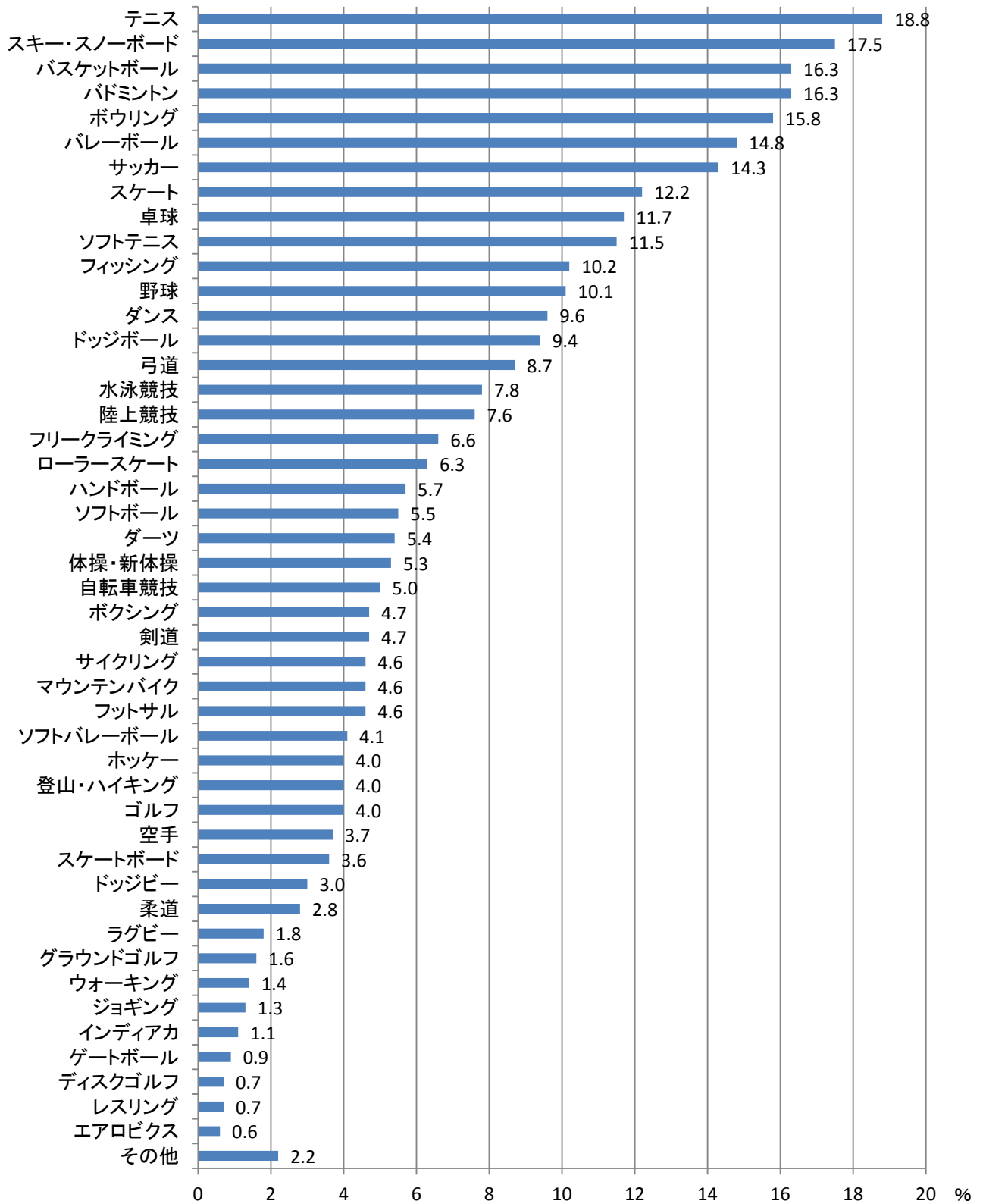
資料12:スポーツが好きな理由(3つ以内)



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

(2) 行ってみたいスポーツ種目

資料13: 行ってみたいスポーツ種目(複数回答)



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

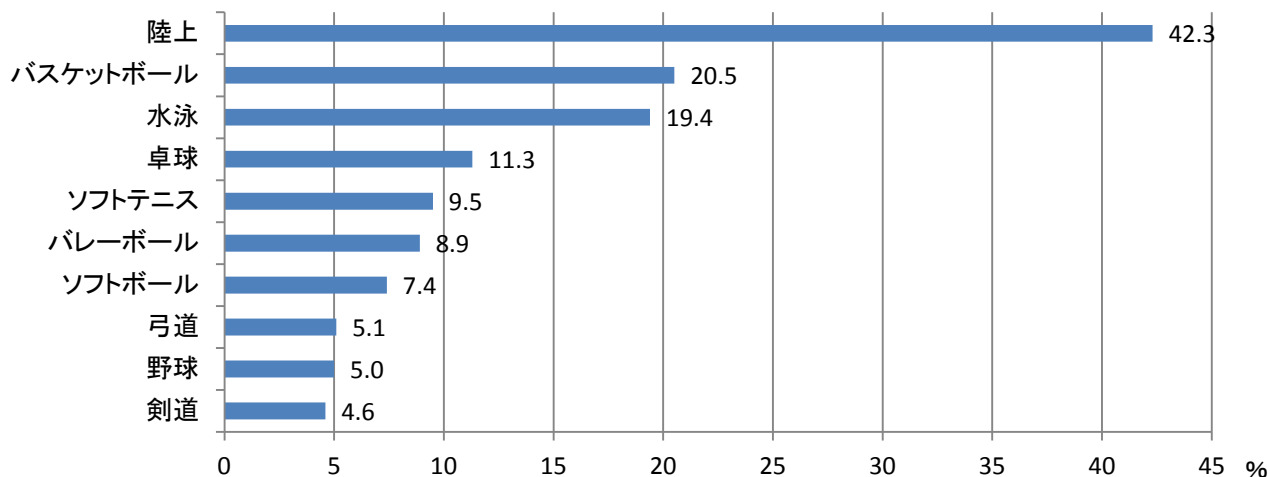
子供が行ってみたいスポーツ種目として「テニス」(18.8%)や「スキー・スノーボード」(17.5%)、「バドミントン」(16.3%)など学校の部活動にない種目にも興味を示していることがわかります。〈資料13〉

(3) 学校でのスポーツ活動

市内16小学校(5・6年生)および6中学校の子供が行っている運動部活動や課外活動は、資料14に示す通りです。多くの子供が何らかの運動・スポーツに取り組んでいます。しかし、中学校においては全ての学校で実施されている種目は弓道とソフトテニス男子のみとなっています。これ以外の種目は、学校によって異なりますが、近年の少子化に伴う部活動の再編も考えていかなければならない時期に直面しています。

また、小学校においても学校統合に伴う学校数の減少により、各種大会の持ち方を検討しなければならない状況となっています。

資料14: 学校の運動部活動や課外活動で行っているスポーツ種目(複数回答)



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

部活動や課外活動について感じていることは、「練習がきつい」(22.8%)が最も多く、次いで「選手として大会に出場したい」(20.4%)、「練習時間が短い」(17.6%)となっています。<資料15>

資料15：部活動や課外活動で感じていること（複数回答 上位7項目）

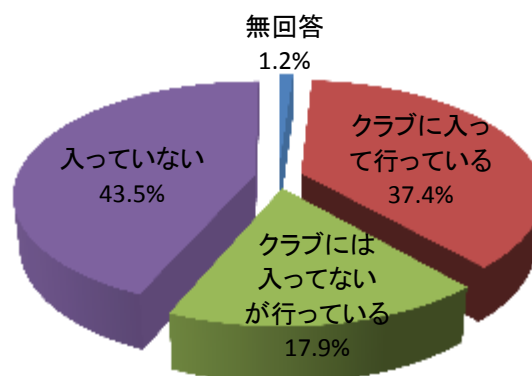
練習がきつい	22.8%
選手として大会に出場したい	20.4%
練習時間が短い	17.6%
練習時間が長い	12.5%
練習する場所が狭い（少ない）	11.5%
練習が楽すぎる	11.2%
練習のための器具や道具が少ない	10.3%

「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

(4) 学校以外でのスポーツ活動

学校以外でクラブ等に入ってスポーツを行っている子供は37.4%います。また、クラブ等に入っていないなくても学校以外で運動・スポーツを行っている子供は17.9%おり、半数以上の子供が学校以外でもスポーツを行っていることがわかります。<資料16>

資料16:学校以外で行っているスポーツへの参加状況



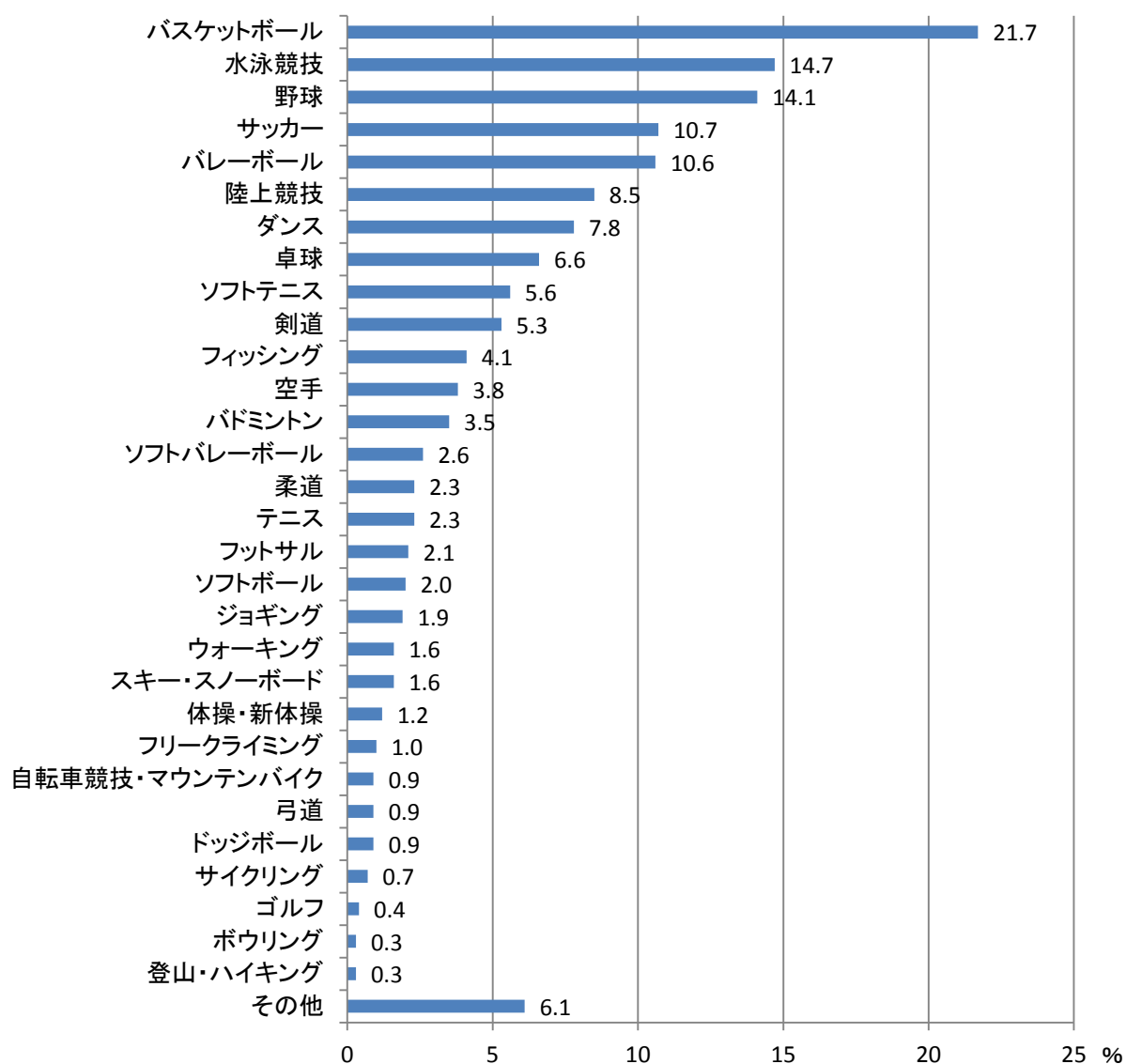
「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)



【水泳教室】

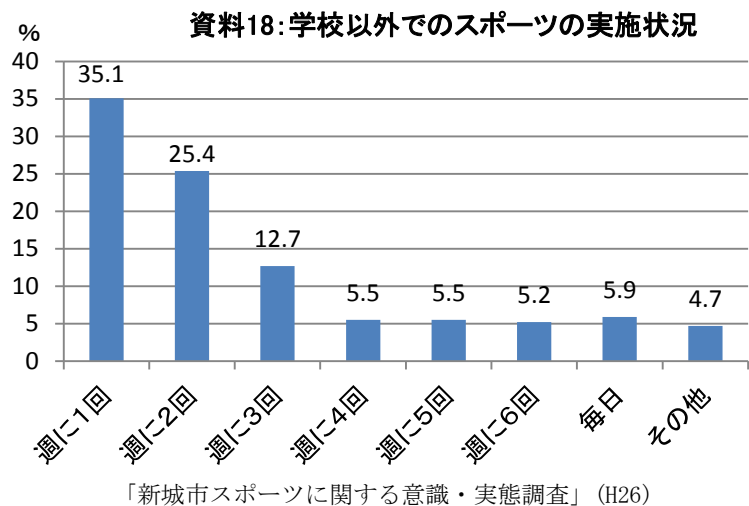
子供が学校以外で行っているスポーツを見ると、「バスケットボール」(21.7%)が最も多く、次いで「水泳競技」(14.7%)、「野球」(14.1%)、「サッカー」(10.7%)、「バレーボール」(10.6%)となっており、学校の部活動にない種目にも参加していることがわかります。<資料 17>

資料17:学校以外で行っているスポーツ種目(複数回答)



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

学校以外でのスポーツの実施状況は、「週に1回」(35.1%)が最も多く、続いて「週に2回」(25.4%)、「週に3回」(12.7%)となっています。<資料 18>



学校以外でスポーツを行っている理由として、「うまくなりたいたから」(65.5%)と「やりたいスポーツだから」(60.4%)が多くを占め、技能の向上と欲求の充足のためにスポーツを行っていることがわかります。

また、「じょうぶな体をつくりたいから」(24.2%)や「プロを目指したいから」(13.9%)という理由も次いでおり、健康・体力の増進やトップアスリートを目指している子供も見られます。<資料 19>

資料 19 : 学校以外でスポーツを行っている理由 (複数回答 上位 7 項目)

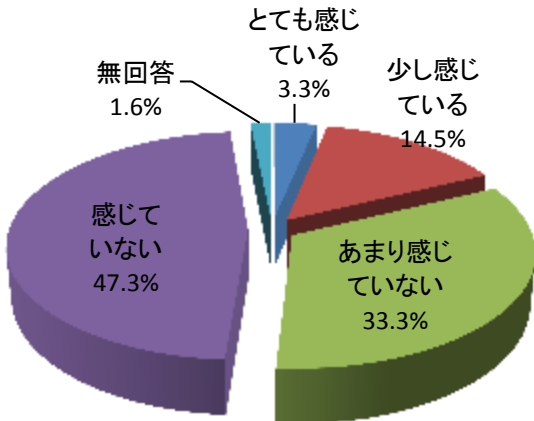
うまくなりたいたから	65.5%
やりたいスポーツだから	60.4%
じょうぶな体をつくりたいから	24.2%
プロを目指したいから	13.9%
友人や仲間をつくりたいから	7.4%
家の人にすすめられるから	5.9%
家族といっしょに行えるから	5.3%

「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

学校以外でスポーツを行うにあたり、不便を感じている子供は、全体で2割程度と少ないです。<資料 20>その中でも、「場所が遠いから」(39.3%)や「お金がかかるから」(25.7%)、「使用できる施設が少ないから」(16.0%)など利便性を求める声があります。<資料 21>

また、「勉強や塾で時間が十分にとれないから」(21.8%)という理由もあり、子供の多忙さがスポーツの実施に少なからず影響を及ぼしていることがわかります。

資料20:学校以外でスポーツを行うにあたっての不便の感じ度合



資料 21 : 不便を感じている理由 (複数回答 上位7項目)

場所が遠いから	39.3%
お金がかかるから	25.7%
勉強や塾で時間が十分にとれないから	21.8%
使用できる施設が少ないから	16.0%
一緒に行く友人や仲間がいないから	12.1%
機会がないから	11.2%
指導者がいないから	3.9%

「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

3 スポーツ振興組織

(1) 新城市体育協会

新城市体育協会は本市教育委員会スポーツ課に事務局を置き、①種目別競技団体、②体育・スポーツ指導者団体、③学識経験者等、④本協会の目的に賛同する者、等の団体ならびに会員で組織しています。〈資料 22〉

資料 22 : <加盟団体>23 団体

1 野球協会	9 バレーボール協会	17 グラウンド・ゴルフ協会
2 ソフトボール協会	10 少林寺拳法協会	18 ダーツ協会
3 卓球協会	11 ゲートボール協会	19 フライングディスク協会
4 弓道協会	12 陸上競技協会	20 空手道連盟
5 テニス協会	13 剣道連盟	21 スポーツ指導者連絡協議会
6 ソフトテニス協会	14 サッカー協会	22 つくですっきり体操クラブ
7 バドミントン協会	15 日本拳法新城協会	23 健康スポーツクラブ
8 柔道会	16 インディアカ協会	

「市教委調べ」(H27)

(2) スポーツ推進委員

本市教育委員会の非常勤公務員として、教育委員会のスポーツ振興施策を市民に伝える役割をもっています。また、市民に対し、スポーツの実技の指導とその他スポーツに

関する指導・助言を行っています。現在は、教育委員会より 32 名の推進委員が委嘱され、任期は 2 年となっています。毎月、総務委員会および隔月の定例会を実施し、委員会活動のよりよい運営方法を検討しています。

主催行事としては、「つくしんぼうスポレク祭」や「こどもすぽ一つくらぶ」を実施し、教育・行政機関の行うスポーツの行事や事業に協力したり、市民へスポーツについての理解を図ったりするなど、本市のスポーツの推進に寄与しています。

(3) 体育振興会と総合型地域スポーツクラブ

地域のスポーツ振興の重要な役割を担う体育振興会は、昭和 39 年新城地区南部に、昭和 50 年新城地区西部、昭和 51 年新城地区中部、昭和 52 年新城地区北部、昭和 53 年新城地区東部に設立されました。

現在は、地区の運動会をはじめ、スポーツ大会や各種団体との協力行事など活動内容は地区ごとに異なりますが、

資料 23：総合型地域スポーツクラブ設立時期

地区住民の健康づくりに大きく寄与しています。

また、平成 12 年度より、「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」に取り組み、新城地区西部や新城

地区	クラブ名	設立年月日
千郷地区	千郷地区体育振興会	平成 15 年 9 月 14 日
東郷地区	東郷体育振興会	平成 15 年 1 月 19 日
八名地区	八名体育振興会	平成 15 年 5 月 1 日
	バリアフリークラブ	平成 14 年 8 月 1 日

「市教委調べ」(H27)

地区北部、新城地区南部の各体育振興会が前身となって、総合型地域スポーツクラブを設立しました。総合型地域スポーツクラブとは、学校体育施設など地域の身近な施設を利用して多種多様な種目を行い、初心者から競技者、また、子供から高齢者に至るまで誰でも会員となれるもので、家庭・学校・地域が一体となって取り組んでいる地域のスポーツクラブです。

現在、市内には、この体育振興会をベースにした形態と「バリアフリークラブ」(*)のように特定の競技団体をベースにした形態で活動している総合型地域スポーツクラブがあります。〈資料 23〉

(*) バリアフリークラブ：グラウンド・ゴルフ協会をベースとして地区を問わずに参加できることを目的につくられたクラブ。

(4) スポーツクラブ

現在スポーツクラブは資料 24 のように 222 団体あり、延べ約 3,200 人が各クラブへ所属し、活動をしています。近年の少子化に伴い、少年クラブの登録者には減少の傾向が見られます。

資料 24 : スポーツクラブ

種 目	クラブ数	登録者数	種 目	クラブ数	登録者数
陸上競技	1	25	ゲートボール	28	211
サッカー	1	20	グラウンド・ゴルフ	10	410
テニス	3	45	フライングディスクゴルフ	1	20
バレーボール	60	607	少女バレーボール	1	21
ソフトテニス	1	47	インディアカ	4	34
卓球	1	60	健康体操	1	20
軟式野球	43	350	リフレッシュ体操	1	23
バドミントン	8	42	フィットネス	2	15
ソフトボール	27	561	少年野球	2	78
弓道	2	86	少年サッカー	2	128
柔道	12	44	ミニバスケットボール	5	113
剣道	1	84	少年剣道	1	13
空手道	1	20	ダーツ	1	40
少林寺拳法	1	7	多種目	1	32
合計				222	3,156

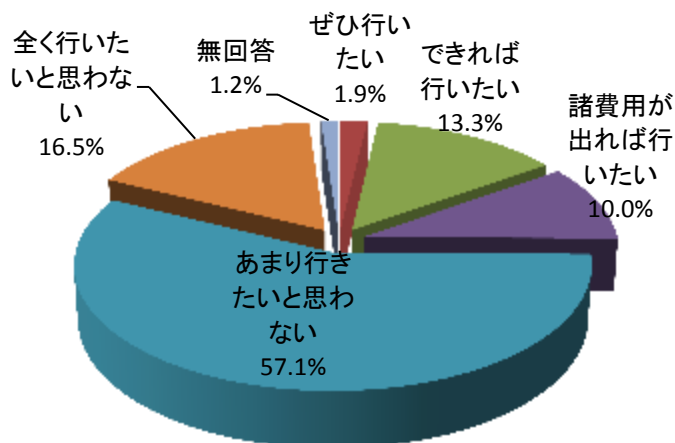
「市教委調べ」(H27)

(5) スポーツボランティア

スポーツボランティアへの参加意欲は、「できれば行いたい」(13.3%)、「諸費用が出れば行いたい」(10.0%)という人を合わせて全体の25%ほどとなっています。〈資料25〉

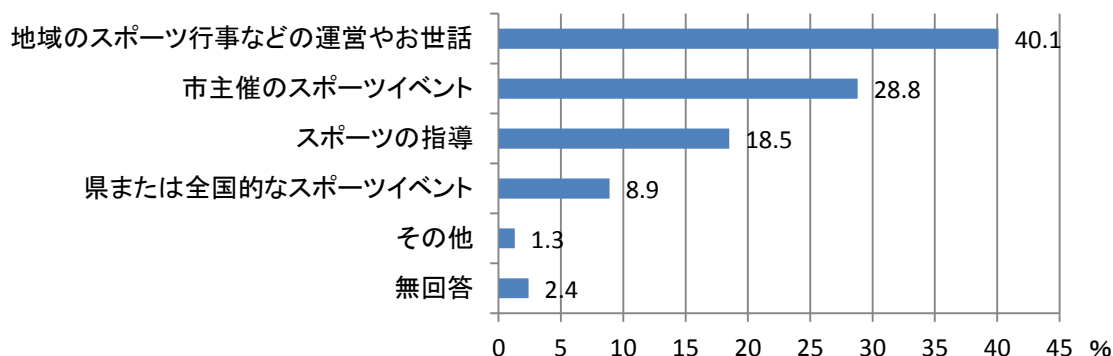
また、その希望活動内容は、「地域のスポーツ行事などの運営やお世話」(40.1%)が最も多く、身近なものであればスポーツボランティアとして協力が可能な様子が見られます。〈資料26〉

資料25:スポーツボランティアへの参加



「新城市運動・スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

資料26:希望活動内容



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

4 スポーツ指導者

(1) スポーツ指導者の現状

平成26年度末現在の新城市のスポーツ指導者数は、スポーツ推進委員32人、各種全国体育協会認定指導者41人、各種スポーツ少年団有資格指導者16人、新城SLA(スポーツリーダーアソシエーション)29人となっています。〈資料27〉

資料27:スポーツ指導者の人数

区分	男	女	計
スポーツ推進委員	23	9	32
全国体育協会認定指導者	31	10	41
スポーツ少年団有資格指導者	15	1	16
新城SLA(スポーツリーダーアソシエーション)	17	12	29
計	86	32	118

「市教委調べ」(H27)

また、全国体育協会認定指導者を種目別に見ると、バレーボールが16人と最も多く、次いでソフトボールの7人となっています。全体および各競技団体で見た時、いずれも指導者が十分に確保されているはいえませんが、

＜資料 28＞

スポーツ推進委員については、高齢化が続いており、60歳以上の割合が県においては36.7%であるのに対し、本市では43.7%となっています。＜資料 29＞

資料 28：全国体育協会認定指導者種目別人数

種 目	人 数		種 目	人 数	
	男	女		男	女
バレーボール	10	6	自転車	1	0
ソフトボール	6	1	ソフトテニス	1	0
水泳	1	2	ゲートボール	1	0
弓道	2	1	柔道	1	0
スポーツプログラマー	2	0	バドミントン	1	0
アスレティックトレーナー	2	0	ジュニアスポーツ指導員	1	0
山岳	2	0	計	31	10

「県教委資料」

資料 29：スポーツ推進委員年齢構成

区 分	20代	30代	40代	50代	60代	70代
新城市	0%	0%	25.0%	31.3%	31.3%	12.4%
愛知県	0.9%	3.4%	24.2%	34.8%	27.6%	9.1%

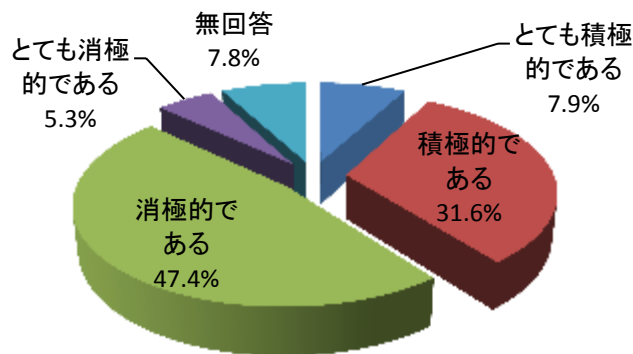
「県教委資料」

(2) スポーツ指導者の意識

スポーツ指導者の52.7%が市民のスポーツへの参加に対して「消極的である」または「とても消極的である」と回答しています。＜資料 30＞

また、市民にどれくらいの割合でスポーツを行ってほしいかを調べると、「週に1～2回」(50.0%)が最も多く、

資料30:市民のスポーツへの参加状況の印象



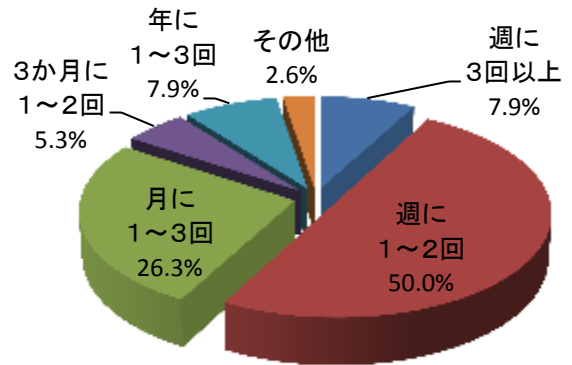
「新城市スポーツに関する意識調査」(H27)

次いで「月に1～3回」(26.3%)、「週に3回以上」(7.9%)となっています。

<資料 31>

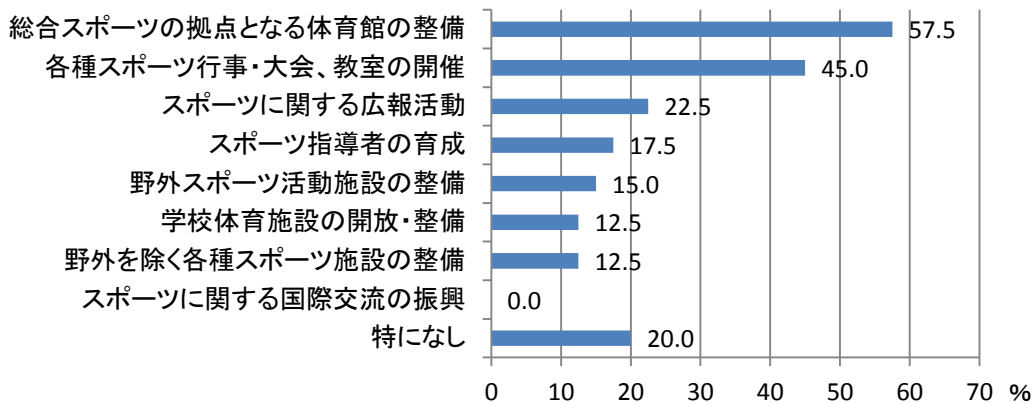
さらに、市に力を入れてもらいたいスポーツ施策として、「総合スポーツの拠点となる体育館の整備」(57.5%) 「各種スポーツ行事・大会、教室の開催」(45.0%)が多く、市民同様、スポーツを行う場所やきっかけづくり、機会を求めています。<資料 32>

資料31:市民にスポーツを行ってほしい度合



「新城市運動・スポーツに関する意識調査」(H27)

資料32:市に力を入れてもらいたいスポーツ施策(複数回答)



「新城市スポーツに関する意識調査」(H27)

5 スポーツ施設

(1) 市内の公共スポーツ施設

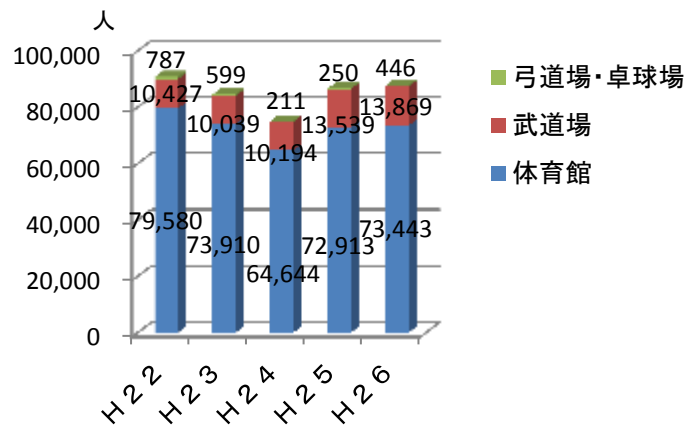
本市には、野球場や陸上競技場、テニスコートなどの施設をもつ県営新城総合公園をはじめ、公共の野球場が3施設、テニスコートが4施設あり、その他にも多目的広場や武道場、艇庫など様々なスポーツ施設が整備されています。

市内の公共スポーツ施設の年間延べ利用者数は、過去5年間の推移を見たところ、各施設とも顕著な増減は見られません。〈資料33〉

また、市内の1中学校を除くすべての小中学校及び県立学校、専門学校において、体育館・運動場の開放が行われています。学校利用施設利用者数は、平成26年度で約87,000人であり、こちらもここ数年横ばい状況となっています。しかし、土日や祝日及び夜間の利用については、新城地区を中心に多くの施設で稼働率が非常に高くなっています。

今後は、鳳来地区及び作手地区における施設の利用促進と、稼働率に余裕がある施設への利用の分散化を図ることが求められます。

資料33: 学校施設利用者数



「市教委調べ」(H27)



【鬼久保ふれあい広場】

新城市 スポーツ施設一覧（県所有含む）

スポーツ施設の内容 ★ナイター施設あり ◆県の所有

区分	番	施設名	内容	問合せ・申込先	
公共的スポーツ施設	屋外スポーツ施設	1	桜淵いこいの広場	多目的運動場	市教育委員会 32-0649
		2	有海緑地公園	★野球場 テニスコート 陸上競技場	
		3	レストハウス	テニスコート	
		4	豊島河川敷	多目的運動広場	
		5	八名井河川敷	多目的運動広場	
	6	新城総合公園 ◆	野球場 陸上競技場 競技場 弓道場 硬式テニスコート ニュースポーツ広場 屋根付広場	25-1144	
	7	運動広場	ゲートボール場	各行政区	
	8	新城吉川野営場	多目的広場	34-0266	
	9	愛知県民の森 ◆	キャンプ場 多目的広場	32-1262	
	10	ふれあいパークほうらい	多目的運動広場	32-0649	
	11	山びこの丘	★多目的グラウンド テニスコート 武道館	35-1191	
	12	竹ノ輪運動場	多目的運動広場	34-0004	
屋内施設	13	鬼久保ふれあい広場	★野球場 ★テニスコート 作手B&G海洋センター体育館 剣道場 弓道場 25mプール 艇庫	市教育委員会 38-1431	
	14	新城武道場	武道場	32-0649	
	15	青年の家	体育室	23-1191	
	16	勤労青少年ホーム	軽運動場	23-1123	
	17	鳳来ゆ〜ゆ〜ありいな	25mプール トレーニングルーム	32-2212	
	18	山吉田トレーニングセンター	体育館	34-0004	
学校体育施設	屋内・屋外体育施設	19	新城小学校 ★	運動場 体育館 25mプール *八名小学校は子ども市民プールとしても開放	22-0112
		20	千郷小学校 ★		22-0162
		21	東郷西小学校		22-0107
		22	東郷東小学校		22-0756
		23	舟着小学校		22-0252
		24	八名小学校		26-0043
	25	庭野小学校	運動場 体育館	22-0703	
	26	鳳来中部小学校 ★	運動場 体育館 25mプール	32-0004	
	27	鳳来寺小学校		35-1011	
	28	鳳来西小学校		36-0216	
	29	海老小学校		35-0043	
	30	連谷小学校		35-0415	
	31	黄柳川小学校		34-0206	
	32	東陽小学校 ★		32-1039	
	33	鳳来東小学校 ★		33-0336	
	34	作手小学校北校舎	38-1114		
	35	作手小学校南校舎	38-1314		
	36	新城中学校	運動場 体育館 50mプール 武道場 弓道場 テニスコート	22-0257	
	37	千郷中学校	運動場 体育館 25mプール 武道場 弓道場 テニスコート	22-0362	
	38	東郷中学校		22-0757	
39	八名中学校 ★	26-0002			
40	鳳来中学校	運動場 体育館 50mプール 武道場 弓道場 卓球場 テニスコート	32-0012		
41	新城高等学校 ★◆	運動場 体育館 25mプール 武道場 弓道場 テニスコート	22-1176		
42	新城東高等学校 ◆		22-2725		
43	新城東高等学校作手校舎 ★◆		37-2119		
44	穂の香看護専門学校	運動場 体育館 テニスコート	32-0649		

新城市 スポーツ施設位置図

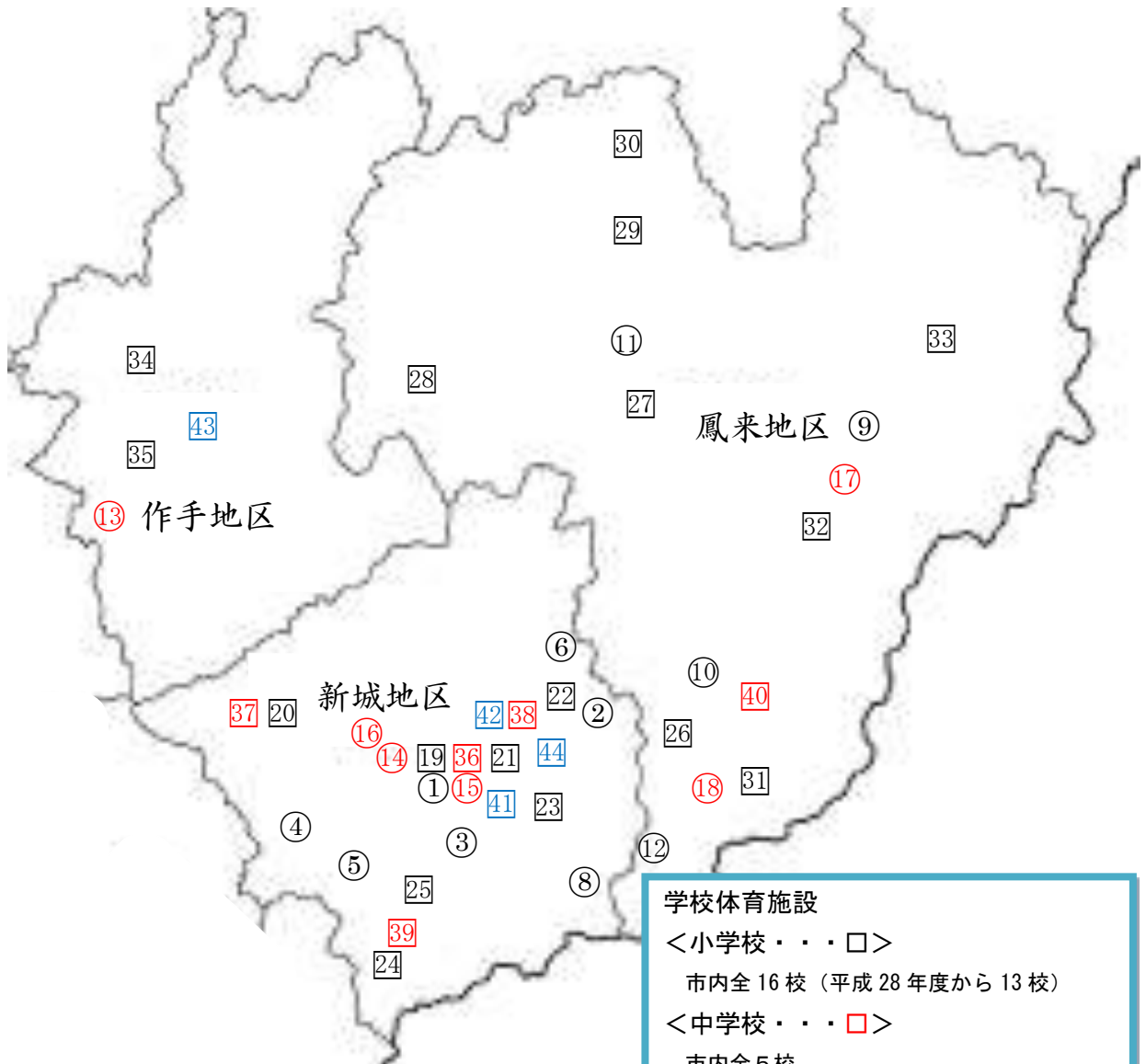
公共的スポーツ施設

<屋外・・・○>

- 1 桜淵いこいの広場 2 有海緑地公園 3 レストハウス 4 豊島河川敷
 5 八名井河川敷 6 新城総合公園 ※7 運動広場（各行政区） 8 新城吉川野営場
 9 愛知県民の森 10 ふれあいパークほうらい 11 山びこの丘 12 竹ノ輪運動場

<屋内・・・○>

- 13 鬼久保ふれあい広場 14 新城武道場 15 青年の家 16 勤労青少年ホーム
 17 鳳来ゆ～ゆ～ありいな 18 山吉田トレーニングセンター



学校体育施設

<小学校・・・□>

市内全 16 校（平成 28 年度から 13 校）

<中学校・・・□>

市内全 5 校

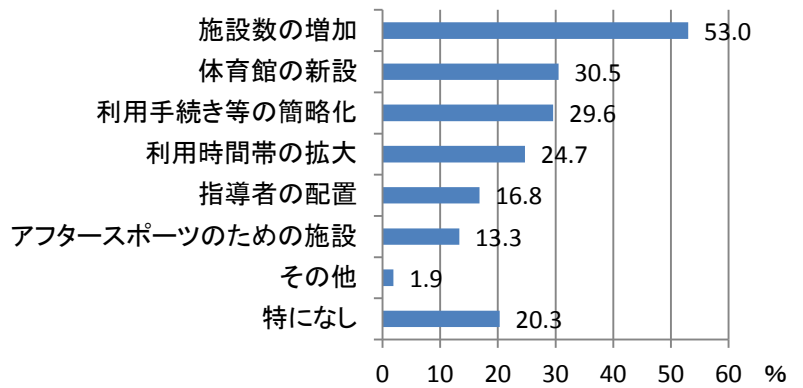
<県立学校及び専門学校・・・□>

市内全 4 校

(2) 市民の声

「新城市スポーツに関する意識・実態調査」結果によると、公共スポーツ施設への要望として「施設数の増加」(53.0%)や、「体育館の新設」(30.5%)があげられています。〈資料 34〉

資料34: 公共スポーツ施設に望むこと(複数回答)



「新城市スポーツに関する意識・実態調査」(H26)

6 スポーツ情報

(1) 「広報しんしろ」や報道機関による情報提供

本市で行われる各種スポーツ大会や教室、行事等のスポーツ情報は、市広報紙「広報しんしろ ほのか」や市のホームページを中心として広く市民にお知らせしています。資料 35 に示すように、情報提供は主にちらしや報道機関、防災行政無線など、5つの方法で行っています。

資料 35 : スポーツ情報の提供方法

区 分	広報しんしろ (ホームページを含む)	ちらし	ポスター	報道機関	防災行政無線
市民体育大会	☆	☆		☆	
つくしんぼうスポレク祭	☆	☆	☆	☆	
こどもすぽ一つくらぶ	☆	☆			
水泳教室	☆	☆			
ツール・ド・新城	☆		☆	☆	☆
子ども市民プール	☆	☆			
少年スポーツ教室	☆	☆			
市民歩こう会	☆	☆		☆	☆
新城ラリー	☆	☆	☆	☆	☆
新城マラソン大会	☆	☆	☆	☆	☆
鳳来地区市民ゴルフ大会	☆	☆			

「市教委調べ」(H27)

V スポーツ振興上の課題

1 スポーツを始めるきっかけづくり

市民の週1回以上のスポーツ実施率はおよそ27.4%（3.5人に1人）となっております。これは、本市の前回の同内容調査の値23.4%（H13）よりは上回っているものの、県の同内容調査の値45.5%（H22）と比較すると大きく下回っています。

スポーツを行わない理由としては、「仕事（家事・育児含む）が忙しくて時間がとれないから」について、「機会がないから」が多くなっています。また、費用の問題をあげる人もいます。今後は、様々なスポーツ活動の啓発をし、スポーツの機会を増やし、気軽にスポーツを始めるきっかけづくりを行う必要があります。

さらに、幼児期からの体を動かす習慣の定着を図るために、幼い頃から意図的に運動に親しみ、楽しさや喜びを感じることができるようにさせることや、基本的な生活習慣を身につけさせることは、生涯にわたって運動を続けるための基盤づくりに重要な役割を果たします。

2 将来を見据えた学校部活動の見直し

近年の本市における子供の減少に伴い、子供たちがスポーツを通し、健やかな心身をつくり、将来にわたってスポーツを愛好し続けることができるように、学校部活動の編成や学校枠あるいは中小学校体育連盟との関わりなど、学校部活動のあり方について検討を進めていく必要があります。そこで、地域のスポーツ指導者や各種のスポーツ団体と連携するなど、これまでの部活動のあり方を見直し、再構築していくことが重要となります。そのためにも地域や各種のスポーツ関係団体が、情報交換・交流・会議・研修等を積極的に行うことができるようにするしくみを考えることが大切です。

3 新都市の恵まれた自然を活かしたスポーツの展開

本市の緑豊かな山々や清らかな河川、起伏のある地形をフィールドとして、フリークライミングやカヌー、マウンテンバイクやウォーキングといったアウトドアスポーツが随所で行われています。このような本市の特色を活かした自然に親しみ、自然を活用する多様な活動様式のスポーツの普及・振興は、生涯スポーツ社会形成につなげるために重要な課題となります。

4 生涯スポーツの展開と振興組織の充実

本市は高齢化が進展し、介護費用負担や医療費の増大などが懸念され、高齢者の健康づくりは大きな課題となっています。そこで、高齢者の介護予防を含めた健康づくりを推進するため、誰でも気軽に実施できる健康・体力づくりプログラムの提供や、参加形態に応じた自主的な活動を支援する環境を整えることが必要です。

また、障がいの多様性を理解し、障がい者の主体的スポーツ活動を支援する環境整備を行うことも今後の課題となります。

さらに、競技スポーツの振興を図るために、競技スポーツに取り組む人の努力や成果に対する顕彰を充実し、競技者の意欲向上を図ったり、本市出身のトップアスリート等による指導機会を確保したりすることで、競技者の裾野の拡大や競技力の向上につなげていくことが重要です。

そして、地域の実情に応じた総合型地域スポーツクラブのあり方を検討し、地域に根差したスポーツクラブの支援のあり方と具体的な施策を考える必要があります。加えて、スポーツ推進委員や地域のスポーツリーダー育成への具体的な施策についても考える必要があります。

5 スポーツを支える人材の確保と育成

本市のスポーツ団体では、スポーツ指導者の高齢化やスポーツに携わる人材不足の問題が顕在化しています。

市民のスポーツニーズが多様化している昨今では、生涯スポーツを着実かつ円滑に振興していくために、各種競技スポーツ指導者をはじめ、クラブ運営責任者やスポーツボランティアなど、「見守るスポーツ」及び「協力するスポーツ」として、人々のスポーツ活動を見守ったり、施設・設備を整備したりする人材であるスポーツサポーター(*)の確保と育成が必要不可欠です。

6 地域におけるスポーツ施設の整備と利用促進

スポーツを実施する上での問題点として、「場所や施設がない」という声が25%近くあります。また、市に力を入れてもらいたい施策として、およそ50%の人が、学校体育施設等の整備を望んでいます。既存の施設の整備と利用促進、バリアフリー化、施設数の増加など広域型と地域型の両面より検討を進める必要があります。また、単に新しい施設を建設するというのみにとらわれず、学校体育施設やその他の公共施設をいかに有効活用するかという点を重視しながら進めていくことも重要です。

なお、総合スポーツの拠点となる体育館の建設については、建設要望の声は大きいですが、諸条件を考慮したより一層の検証が求められます。

7 スポーツに関する情報提供の充実

本市では、様々なスポーツ行事やイベントを実施してきていますが、その認知度は思っているほど高くないのが現状です。そこで、インターネットなどを活用し、多くの市民に情報提供する必要があります。さらに、利用可能なスポーツ施設の情報など、市民の利便性を踏まえてのあり方を検討する必要があります。

(*) スポーツサポーター：各種競技指導者やクラブ運営責任者、スポーツボランティアはもとより、スポーツする子供を見守る「見守るスポーツ」及び施設・設備の充実に寄与する「協力するスポーツ」として携わる人材を表す新城市独自の総称。